

平成13年9月～平成14年3月：248t)、加入群の分布密度とその後の漁獲量には関連が認められない。平成14年加入群の分布密度は、平成13年のそれと同程度と推測されることから、引き続き推移を観察したい。

イ. マダラ

ア) 採集状況

マダラは50、100、150、200、300m深で採集され、このうち春季には100～150m深でも採集されたが、それ以外の時期は300m深での採集数が多かった。

イ) 採集サイズ (図4)

平成12年級群は同年5月に50m深で採集され(体長5cm台)、月を追うごとに生息水深帯が深所へ移行し、同年末には体長14～15cmに、平成13年3、4月には17～18cmにモードが見られた。平成13年級群が採集され始めたのは9月からで、平成12年級群に比べ約4カ月遅く、その数も少なかった。

ウ) 分布密度 (図5)

平成12、13年級群の分布密度は、平成12年級群については大量に採集された月もあり、平成13年級群に比べかなりの資源水準であることをうかがわせた。

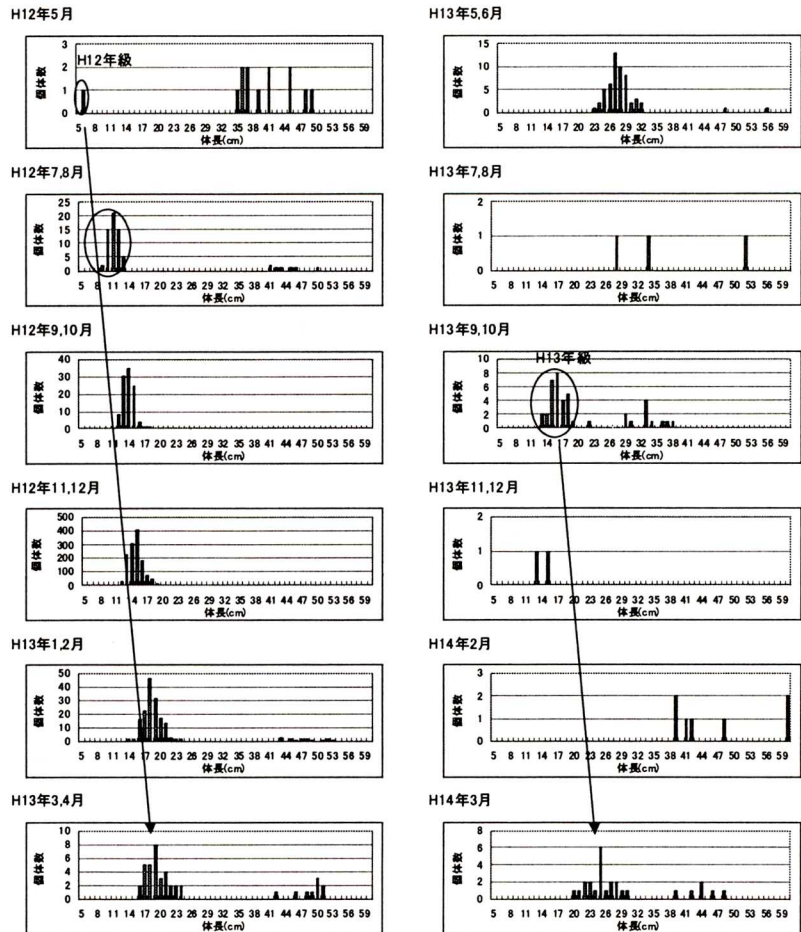


図4 マダラ年級群別採集サイズ

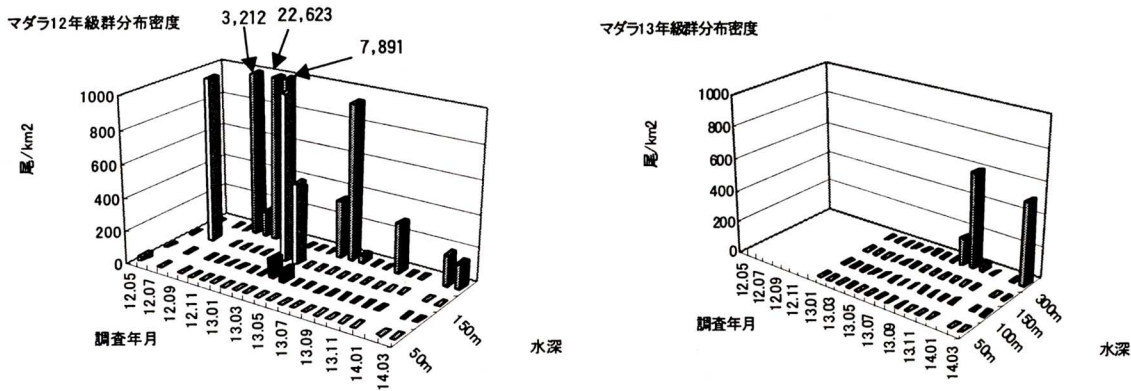


図5 マダラ年級群別分布密度